SYLLABUS（後期）

授業科目	ビジネスマナーⅡ	年次	２年	前後期	通年	単位	４
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容							
教育目標	社会人、企業人としての心得・礼儀作法、マナーについて学ぶ。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　　目	授　業　内　容
1	社会常識を高める 情報収集、分析①	新聞に必ず目を通し、効果的な運用を 紙面構成を知って効率のよい読み方を
2	社会常識を高める 情報収集、分析②	マス・メディアを利用した情報の収集 インターネットの利用
3	社会常識を高める 情報収集、分析③	新聞記事の読み方
4	表とグラフ①	数値の把握の大切さ　表とグラフの役割と重要性 表の特徴と形式　表を読むための基礎知識
5	表とグラフ②	表と計数処理　用語に関する基礎知識 グラフを読むための基礎知識
6	業種・業界の知識①	日本経済の基本構造 日本経済の発展過程
7	業種・業界の知識②	さまざまな業種と最近の動き
8	業種・業界の知識③	産業構造の変化と新しい産業 社会生活と価値観の変化
9	会社の仕組みと売上・利益①	会社の３つの大きな特徴 売上と利益
１０	会社の仕組みと売上・利益②	新しい社会制度 会社の社会的な意義
１１	会社の仕組みと売上・利益③	組織を効率よく動かすための分業システム 組織はライン部門とスタッフ部門にわかれる
１２	会社の仕組みと売上・利益④	組織内における自分の役割を認識する 組織の一員として自覚しておきたいこと
１３	社会保険と税金①	社会保険は社会保障制度の根幹 健康保険・雇用保険・労災保険
１４	社会保険と税金②	国民年金と厚生年金 国税と地方税
１５	社会保険と税金③	所得税と住民税 将来の生活設計を考えたうえでの保険選び

１回配当時間	２時間	1コマ	
使用教科書	就職活動 実践!ワークブック 改訂版		

SYLLABUS（後期）

授業科目	環境工学	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築環境を構成する要因を理解し、快適で健康的な居住空間を構築する手法を理解させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	色彩について（Ⅰ）	色の三原色（色相、明度、彩度）とマンセル色立体について説明し理解させる。
2	色彩について（Ⅱ）	色彩と心理（補色対比、面積対比）と色の感情及び室内の色彩計画について説明し理解させる。
3	色彩について（Ⅲ）	演色と色温度及び安全色彩について説明し理解させる。
4	音について（Ⅰ）	音の三要素（音の大きさ、音の高さ、音の音色）及び音の速さについて説明し理解させる。
5	音について（Ⅱ）	音の強さと音の強さレベル（ウェーバーーフェヒナーの法則）について説明し理解させる。
6	音について（Ⅲ）	音の高さと音色と音の大きさレベル（ラウドネスレベル）について説明し理解させる。
7	音について（Ⅳ）	吸音と遮音について説明し理解させる。
8	音について（Ⅴ）	残響と反響について説明し理解させる。
9	音について（Ⅵ）	騒音と騒音防止策について説明し理解させる。
１０	省エネルギーについて（Ⅰ）	パッシブソーラーシステムとアクティブソーラーシステム及び蓄熱システムとタスクアンビ　　エント照明について説明し理解させる
１１	省エネルギーについて（Ⅱ）	ライフサイクルコスト、ライフサイクル二酸化炭素、ライフサイクルアセスメントエネルギー消費係数、年間熱負荷係数について説明し理解させる
１２	省エネルギーについて（Ⅲ）	エアコンの冷凍機の効率を示す成績係数、ビル環境エネルギー管理システムについて説明し理解させる。
１３	省エネルギーについて（Ⅳ）	予測平均温冷感申告と太陽電池及びコージェネレーションについて説明し理解させる。
１４	人工照明について（Ⅰ）	人工光源の特性および白熱電球と蛍光ランプの特徴について説明し理解させる。
１５	人工照明について（Ⅱ）	全般照明と局部照明、直接照明と間接照明、HIDランプとLEDランプのそれぞれの特徴について説明し理解させる。

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	初学者の建築講座建築環境工学　第三版		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築設備	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	快適な居住空間等を構築するために、必要な各種の設備について原理、構造等を理解させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	第3章　空気調和設備 3・1　空気調和設備とは	①　空気調和設備とは　②空気調和設備の目的　③空調の仕組み
2	3・2空気調和と室内環境	① 室内環境基準　②温熱感覚と評価指標　③温冷感指標
3	3・3　空気の状態を知る 3・4　空調負荷の考え方	① 空気線図で用いられる用語　②空気線図の使い方　③空調への応用 ④　冷房・暖房時の湿り空気線図上の動き　⑤空気負荷の概要と条件 ⑥　冷房負荷　⑦暖房負荷　⑧熱負荷の概算値
4	3・5　空気調和方式の種類特徴と設備計画	① 空気調和方式の概要　②空気調和方式の種類　③空気調和方式の特徴 ④ 各種暖房方式　⑤熱源方式の種類　⑥空調設備計画　⑦小問題
5	3・6　熱源・熱搬送設備	① 熱源装置（冷凍機・ボイラー・ヒートポンプ）　②冷凍サイクル ③ 熱搬送設備・室内ユニット　④吹出口・吸込口　⑤空調機
6	3・7　換気・排煙設備	① 換気設備の目的　②換気回数の計算　③換気の方式 ④ 排煙設備の種類と特徴　⑤シックハウスと住宅換気
7	3・8　自動制御装置	① 自動制御の目的　②自動制御の方式　③自動制御機器 ④ これからの管理システム　⑤小問題
8	第4章　電気設備 4・1　電気設備とは	①電気設備とは　②電気設備の役割　③電気設備の構成 ④電気設備の関連法規　⑤周波数と電流・電圧・電力
9	4・2　受変電・幹線設備	① 受変電設備　②低圧受電　③高圧受電　④特別高圧受電 ⑤ 配電方式　⑥幹線設備
１０	4・3　動力設備 4・4自家発電蓄電池設備	① 動力設備の概要　②自家発電設備　③蓄電池設備　④小問題
１１	4・5　照明・コンセント設備	① 照明の概要　②照明器具　③照明方式　④防災照明 ⑤ 照明計算　⑥コンセントの種類　⑦コンセントの設置基準
１２	4・6　情報・通信設備	① 電話設備　②ＬＡＮ設備　③テレビ共同受信設備 ④ 防犯設備　⑤インターホン設備　⑥小問題
１３	4・7　防災設備	① 自動火災報知設備の種類と特徴　②避雷設備　③航空障害灯設備
１４	第５章　搬送設備 建築設備 用語	①エレベーター　②エスカレーター　③その他の搬送設備 ④空気調和設備、給水設備、排水・衛生設備、電気・照明設備、消火・防災設備等の関連用語の重要ポイントを解説する。
１５	演習問題	以上を踏まえ、理解度をチェックするために演習問題を行う。

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	初学者の建築講座建築設備 第四版、詳解2級建築士 過去7年 問題集		

SYLLABUS（後期）

授業科目	鉄筋コンクリート構造	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	鉄筋コンクリート構造の特徴と使用材料の性質を理解し、安全で耐震性を有する建築物を構築するための、構造設計の基礎を習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	床スラブの設計（1）	床スラブの役割、床スラブの設計用曲げモーメント、交差梁理論、設計用曲げモーメント、せん断に対するチェック、スラブの撓み制限について説明する。
2	床スラブの設計（2）	小梁、スラブのひび割れ幅について説明する。床スラブの設計例題の解説を行う。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
3	付着・重ね継手・定着の検討（1）	鉄筋との一体性、付着の検定断面、付着長さ、付着長さの検討、付着に関する構造規定、鉄筋継手の種類、鉄筋継手に関する構造規定、重ね継手長さについて説明する。
4	付着・重ね継手・定着の検討（2）	定着の検定、定着長さ、必要定着長さ、定着に関する構造規定について説明する。付着・継手・定着の設計例題の解説を行う。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
5	柱・梁接合部の設計（1）	接合部の役割、接合部の種類、接合部に発生する応力と変形、接合部に発生する水平せん断力、許容せん断力、設計用せん断力について説明する。
6	柱・梁接合部の設計（2）	接合部の帯筋に関する構造規定、主筋の定着と付着について説明する。接合部の設計例題の解説を行う。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
7	耐震壁の機能と設計（1）	耐震壁の性能、耐震壁の地震被害、壁筋比、使用性確保のための許容せん断力、損傷制御のための許容せん断力、終局せん断強度、せん断破壊の種類などについて説明する。
8	耐震壁の機能と設計（2）	有開口壁、雑壁、耐震壁の構造規定について説明する。耐震壁の設計例題の解説を行う。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
9	基礎スラブの機能と設計（1）	基礎スラブの役割、基礎スラブの設計、応力検定位置、検定断面における発生応力、基礎スラブの検定について説明する。
１０	基礎スラブの機能と設計（2）	杭基礎、その他の注意事項について説明する。基礎スラブの設計例題の解説を行う。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
１１	骨組の保有水平耐力（1）	保有水平耐力の意味、部材のモーメント曲率関係、骨組の荷重変形関係、保有水平耐力計算法、節点振り分け法、崩壊機構を仮定した極限解析について説明する。
１２	骨組の保有水平耐力（2）	必要保有水平耐力の検討、構造特性係数、形状係数、せん断破壊の防止について説明する。保有水平耐力の例題の解説を行う。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める
１３	構造計画と設計プロセス（1）	構造計画の重要性、平面計画上のバランス、立面計画上のバランス、部材の剛性、耐震壁の有効性、構造設計のプロセス、建物のモデル化について説明する。
１４	構造計画と設計プロセス（2）	ラーメンに作用する鉛直荷重、地震力の算定、鉛直荷重時解析、地震荷重時応力算定、地震時の建物の水平変形と構造制限、耐震設計ルートについて説明する。
１５	総合演習問題	１～１４回までに関する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	RC規準による鉄筋コンクリートの構造設計（改訂版）、初めての建築一般構造		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築材料	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築物に使用される材料の製法、特性、加工法、使用法について習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　　目	授　業　内　容
1	第２編　内外装材料 第1章　非鉄金属材料	①銅及び銅合金　②亜鉛　③チタン　④スズ　⑤鉛及び鉛合金 ⑥ニッケル　　⑦その他の合金
2	第２章　石材	①岩石の成因による分類　②石材の種類と特徴　③石材の製法と加工 ④石材の乾式工法・湿式構法　⑤石材の用途
3	第3章　ガラス	①ガラスの種類と分類　　②ガラスの製法　　③ガラスの特徴 ④ガラスの用途　⑤ガラスの取付け方法と建築事例　⑥小問題
4	第４章　セラミックス	①セラミックスの概要と種類及び特徴　②セラミックスの用途　③煉瓦 ④粘土瓦　⑤タイル　⑥テラコッタ　⑦衛生陶器・陶器製品
5	第5章　左官材料	①石灰系材料の種類と特徴　②漆喰　③ドロマイトプライマー　④用途 ⑤石こうプラスター　⑥土壁　⑦版築壁　⑧珪藻土　⑨左官モルタル
6	第6章　プラスチック	①プラスチックの分類と使われ方　②プラスチックの種類と性質 ③ゴムの性質　④ゴムの用途・製品　⑤小問題
7	第７章　塗料・仕上塗材	①塗料・仕上塗材の分類と使われ方　②塗料の種類と特徴及び構成要素 ③ペイント　④ワニス　⑤ステイン　⑥漆　⑦柿渋　⑧仕上塗材
8	第8章　接着剤	①接着剤の分類と使われ方　②接着の仕組み　③接着剤の種類と特徴 ④天然系接着剤　⑤合成系接着剤　⑥樹脂系接着剤 ⑦シックハウス症候群
9	第9章　外壁パネル	①外壁パネル材料の分類と使われ方　　②サイディングの種類と特徴 ③セメント系パネル　④カーテンウォールの種類と施工法　⑤小問題
１０	第10章インテリア材料⑴	①インテリア材料の種類　②壁・開口部仕上げ料　③壁装材　④障子・襖
１１	第10章インテリア材料⑵	①カーテン　②床仕上げ材　③カーペット　④ビニル系床材　⑤畳床
１２	第3編　機能材料 第1章　防水材料	①防水材料の種類と使われ方　②メンブレン防水　③アスファルト防水 ④シート防水　⑤塗膜防水　⑥ステンレスシート防水　⑦シーリング材
１３	第2章　防・耐火材料 第3章　断熱材料	①建築と火災　②材料の火災特性　③防・耐火構造と防火材料 ④断熱材料の使われ方　⑤主要な断熱材　⑥小問題
１４	第4章　音響材料 第5章　免振・制振材料	①音の特性　②遮音材　　③吸音材料　　④遮音対策 ⑤免震構造と制振構造　　⑥免振構造　　⑦制振構造
１５	演習問題	１～１４回を踏まえて理解度をチェックする。

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、初学者の建築講座 建築材料 第2版		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築法規Ⅱ	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。						
教育目標	実務における基準法及び関連法規の運用について習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　　目	授　業　内　容
1	避難施設等1	適用の範囲、廊下の幅、直通階段、2以上の直通階段
2	避難施設等2	避難階段の設置・構造、屋上広場、排煙設備、非常用照明設備、非常用進入口
3	構造強度1	木造（土台、基礎、柱、構造耐力上必要な軸組）
4	構造強度2	補強コンクリートブロック造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造
5	構造計算1	積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力
6	構造計算2	荷重及び外力、地盤、基礎ぐい
7	内装制限1	特殊建築物、大規模建築物
8	内装制限2	火気使用室、自動車車庫、調理室、適用除外
9	建築士法1	建築士でなければできない設計・工事監理、その他の業務、定期講習
１０	建築士法2	建築士事務所の登録・管理、帳簿・図書の保存、重要事項説明
１１	都市計画法	開発行為の定義・許可、建築の許可
１２	高齢者・障害者等円滑化促進法 耐震改修促進法	目的、定義、特定建築物、特別特定建築物、建築物特定施設 耐震診断の義務・努力義務
１３	住宅品質確保法 特定住宅瑕疵担保履行法	目的、定義、住宅性能評価、住宅瑕疵担保責任 目的、定義、保証金の供託等
１４	雑則・その他の規定	建築基準法適用除外、既存不適格建築物、仮設建築物の制限緩和
１５	その他の関係法令	建設業法、消防法、宅造法、宅建業法、建築物エネルギー消費性能向上法

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編S、 ビジュアルハンドブック 必携建築資料		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築施工Ⅱ	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築物の工事法や完成、引渡し及びアフターケアなどについて習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　　目	授　業　内　容
1	鉄骨工事１	施工計画、材料、工作、加工
2	鉄骨工事２	接合、現場施工、関連工事
3	木工事１	材料、施工準備、加工
4	木工事２	建方、防腐・防蟻処理、下地工事
5	ALCパネル工事	概要、材料、施工
6	PCパネル工事	概要、材料、施工、プレキャストコンクリート工法
7	防水工事１	概要、工法の種類、アスファルト防水
8	防水工事２	シート防水、塗膜防水、シーリング工事
9	左官工事	概要、各種施工
１０	陶磁器質タイル貼り工事	概要、張付け工法
１１	張り石工事	概要、張付け工法
１２	建具工事	種類、施工計画、構造、性能、シャッター、カーテンウォール
１３	内装工事	壁、天井、床
１４	塗装工事 屋根工事	塗料、下地、素地、塗装法 材料、工法
１５	断熱工事 金属工事	断熱材・工法の種類、 表面処理、接触腐食、アンカー工事

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、2級建築施工管理技士 学科テキスト、 建築施工テキスト 改訂版、ビジュアルハンドブック 必携建築資料		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築積算	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築図面その他から各種の経費を算出し、建設費を見積もる方法について習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	施工技術者試験対策①	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
2	施工技術者試験対策②	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
3	施工技術者試験対策③	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
4	施工技術者試験対策④	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
5	施工技術者試験対策⑤	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
6	施工技術者試験対策⑥	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
7	施工技術者試験対策⑦	施工技術者試験における、出題傾向の高い、重要な箇所を説明し 理解させるとともに、関連する演習問題を、実施させ、問題の解答及び解説を行う。
8	鉄筋の数量積算について	数量の表示と計測、計算の共通事項及び、各部分の計算法について 説明し理解させる。
9	鉄骨の数量積算について①	積算の注意事項と鉄骨部材の用語と区分及び、表示の方法と計測、 計算の共通事項について説明し理解させる。
１０	鉄骨の数量積算について②	各部材の計算方法及び鉄骨の問題点について説明し理解させる。
１１	仮設の積算について	仮設の分類と細目及び仮設積算の種類と仮設資材の損料と機械の損料について 説明し理解させる。
１２	分析資料について	科目別コスト厚生費と部分別コスト構成費について説明し理解させる。
１３	諸経費について	仮設と諸経費の問題点について説明し理解させる。
１４	積算の資料について①	市場単価と歩掛かり単価の違いについて説明し理解させる。
１５	積算の資料について②	市場単価と歩掛かり単価の違いについて説明し理解させる。

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	詳解2級建築士　過去7年　問題集、基準に基づく建築積算入門　新訂第4版		

SYLLABUS（後期）

授業科目	鉄骨構造	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	鉄骨の力学的性質を把握させ、各荷重による応力、変形等の特性を理解し安全で耐震性の高い構造設計の基礎を習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	接合部の力学	接合要素と接合部、ボルト接合の概要、力の伝達機構、最小縁端距離、 最大縁端距離、ボルトのピッチ及びゲージなどについて説明する。
2	高力ボルト接合（1）	高力ボルト接合の概要・品質、導入ボルト張力、締め付け方法、 トルクコントロール法、ナット回転法などについて説明する。
3	高力ボルト接合（2）	高力ボルト摩擦接合の原理、高力ボルト引張接合の原理、許容引張力、引張力と せん断力を同時に受ける高力ボルト接合について解説を行う。 その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
4	溶接（1）	溶接工法、アーク手溶接、自動アーク溶接、半自動アーク溶接、 完全溶込み溶接継目、すみ肉溶接継目などについて説明する。
5	溶接（2）	溶接継目の有効面積、溶接部の許容応力度、溶接欠陥などについて説明する。 溶接の設計例題の解説を行う。 その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
6	接合要素の応力分担	接合要素の応力分担の概要、部材の軸方向力またはせん断力を伝える場合、 部材の曲げモーメントを伝える場合、 ボルトによる引張接合などについて説明する。
7	各種接合部	接合部設計の基本、梁端溶接仕口、接合部パネル、梁継手、柱継手、 トラスの接合部について説明する。
8	柱脚の設計	柱脚の設計の概要、露出型、根巻型、埋込型などについて説明する。 柱脚の設計例題の解説を行う。 その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
9	耐震設計概要（1）	耐震設計体系の概要、許容応力度等計算の体系、一次設計、地上部分の地震力、 地下部分の地震力、局部震度などについて説明する。
１０	耐震設計概要（2）	二次設計、層間変形角の検討、剛性率の検討、偏心率の検討、塔状比、ラーメンと 筋かいとの混合構造に対する応力割増などについて説明する。
１１	耐震設計概要（3）	ルート３による設計、接合部の最大強さ、冷間成形角形鋼管柱の扱い、 保有耐力接合梁継手について説明する。保有耐力接合梁継手の例題の解説を行う。 その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。
１２	演習問題（1）	二級建築士の過去問題の解説を行う。 その後、理解力の確認及び理解力を深めるために演習問題を行う。
１３	演習問題（2）	二級建築士の過去問題の解説を行う。 その後、理解力の確認及び理解力を深めるために演習問題を行う。
１４	演習問題（3）	二級建築士の過去問題の解説を行う。 その後、理解力の確認及び理解力を深めるために演習問題を行う。
１５	総合演習問題	１～１４回までに関する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識（第三版）、 初めての建築一般構造		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築士対策講座	年次	２年	前後期	通年	単位	８
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	２級建築士受験に必要な重点内容について演習問題を中心に学習させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	建築士試験の概要、対策 法規（Ⅰ）	建築士試験の概要の説明、建築法規についてのポイント解説
2	法規（Ⅱ）	用語の定義、申請、手続きのポイント解説及び演習テスト、解説
3	法規（Ⅲ）	一般構造のポイント解説及び演習テスト、解説
4	法規（Ⅳ）	高さ制限のポイント解説及び演習テスト、解説
5	法規（Ⅴ）	建蔽率、容積率のポイント解説及び演習テスト、解説
6	法規（Ⅵ）	木造の構造、構造強度についてのポイント解説及び演習テスト、解説
7	法規（Ⅶ）	建築士試験の概要の説明、建築法規についてのポイント解説
8	法規（Ⅷ）	その他法令ににについてのポイント解説及び演習テスト、解説
9	総合模擬試験（Ⅰ）	法規分野について模擬試験実施（45分10問）及び解説（45分）
１０	製図試験対策（Ⅰ）	課題①
１１	製図試験対策（Ⅱ）	課題①
１２	製図試験対策（Ⅲ）	課題②
１３	製図試験対策（Ⅳ）	課題②
１４	総合模擬試験（Ⅱ）	法規分野について模擬試験実施（45分10問）及び解説（45分）
１５	総合模擬試験（Ⅲ）	法規分野について模擬試験実施（45分10問）及び解説（45分）

１回配当時間	２時間	１コマ	
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築ＣＡＤ実習Ⅱ	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	構造の異なる各種図面を、迅速正確に作図する能力と創造性を養成する。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　　目	授　業　内　容
1	CAD製図の復習	設計製図の集大成である卒業制作のために、CAD操作を復習するとともに、 効果的な環境の設定方法や印刷の方法を学ぶ。
2	建築図面の実務 平面図１	平面図で表示すべきこと、寸法の押さえ方を再確認し、質の高い作図を目指す。
3	建築図面の実務 平面図２	平面図で表示すべきこと、寸法の押さえ方を再確認し、質の高い作図を目指す。
4	建築図面の実務 断面図	部屋の役割と高さの関係を再確認する。
5	建築図面の実務 立面図	立面図で表示すべきことを再確認し、表現を工夫して、質の高い作図を目指す。 特に建築基準法に絡む、表示すべきことについて注意する。
6	卒業設計１	設計製図の授業と連携し、図面作成に取りかかる。 手書きの図面を、CADデータ化する。
7	卒業設計２	各自異なる作業を行う中で、自分に合った作業手順を見つける。
8	卒業設計３	CADデータの利点を活かして、面積表の作成や、バリエーションの検討等を行う。
9	卒業設計４	３次元化や、外部データの活用により、作品の伝え方を考える。
１０	卒業設計５	３次元化や、外部データの活用により、作品の伝え方を考える。
１１	卒業設計６	レイアウトを工夫し、作品をまとめる。印刷作業を行う。
１２	建築構造図の作成１ RC造	実務習得のため、建築図面のうち、意匠図以外の図面について、 描き方とポイントを学ぶ。
１３	建築構造図の作成２ 鉄骨造	実務習得のため、建築図面のうち、意匠図以外の図面について、 描き方とポイントを学ぶ。
１４	建築施工図の作成	実務習得のため、建築図面のうち、意匠図以外の図面について、 描き方とポイントを学ぶ。
１５	まとめ	設計製図に必要な描き方とポイントの振り返りとまとめを行う。

１回配当時間	４時間	２コマ	
使用教科書	建築ＣＡＤ検定試験公式ガイドブック、建築ＣＡＤ検定試験問題集、 ドリルで学ぶJW-cad 第4版、実践ドリルで学ぶOffice活用術、卒業設計コンセプトメイキング		

SYLLABUS（後期）

授業科目	建築デザイン実習	年次	２年	前後期	後期	単位	４
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築技術者として必要な、建築物の用途・構造に応じた計画の立案力、設計図面の作成要領等を習熟させ、テーマに沿った自由設計を完成させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　目	授　業　内　容
1	卒業設計４	エスキース：配置図・各階平面図・立面図・断面図・スケッチパース
2	卒業設計５	エスキース：配置図・各階平面図・立面図・断面図・スケッチパース
3	卒業設計６	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
4	卒業設計７	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
5	卒業設計８	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
6	卒業設計９	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
7	卒業設計１０	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
8	卒業設計１１	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
9	卒業設計１２	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
１０	卒業設計１３	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
１１	卒業設計１４	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
１２	卒業設計１５	作図作業(手書き、またはCAD)：配置図・各階平面図・立面図・断面図・ パース・模型制作
１３	卒業設計検討会	卒業設計提出：評価検討会
１４	卒業設計発表会予行演習	発表会の準備：模擬発表会・進行の具合と時間管理・他者へ説明するときの留意点
１５	卒業設計発表会	同級生、下級生、または建築分野以外の学校関係者に対して、 設計主旨やその表現について説明する機会を得ることを目的とする

１回配当時間	８時間	４コマ	
使用教科書			

SYLLABUS（後期）

授業科目	インテリアデザイン実習	年次	２年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。						
教育目標	コーディネーションボードを作成して、プレゼンテーションを行う等、インテリアの総合技能を習得させる。また、設計製図・ＣＡＤ等と連携して卒業作品を制作させる。						
成績評価の方法・基準	成績は１００点満点とし、６０点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の４段階であり、優（Ａ：１００点～８０点）、良（Ｂ：７９点～７０点）、可（６９点～６０点）、不可（Ｄ：６０点未満）とする。						

回数	題　　目	授　業　内　容
1	アクソメ図復習	アクソメ図の作成と　空間に合わせたレイアウトの作成。
2	アイソメ図の作成	アイソメ図作成と 他の作図との表現の違いを検討する。
3	空間の比較	ダイニングキッチンのデザインと様々なプランの比較。
4	演　　習　（A）	キッチンの計画に合わせた　キッチン部材の組み立て演習。
5	演　　習　（A）	キッチン詳細図の作成　①
6	演　　習　（A）	キッチン詳細図の作成　②
7	演　　習　（A）	キッチン空間の立体図作成。
8	演　　習　（B）	課題・問題の読み取り方と要求事項の分析をし、検討を行う。
9	演　　習　（B）	複数の平面計画の作成を行い、それらの比較検討により特徴をつかむ。
１０	演　　習　（B）	ポイントをチェックしつつ　計画の決定と詳細プランを作成する。
１１	演　　習　（B）	立体的な空間表現を行う。
１２	演　　習　（C）	問題文から読み取れるリビング・ダイニング・キッチンの要求事項を検討し、 計画案の作成をする。
１３	演　　習　（C）	インテリアイメージの構築をし、それに合わせたデザイン表現の工夫を検討する。
１４	演　　習　（C）	計画案の詳細検討を行い、その空間の立体図の作成を行う。
１５	演　　習　（C）	計画案の説明と特徴をプレゼンテーションする。

１回配当時間	４時間	２コマ	
使用教科書	インテリアコーディネーター 合格テキスト 新試験対応版、 インテリアコーディネーター１次試験過去問題徹底研究 上・下巻		